

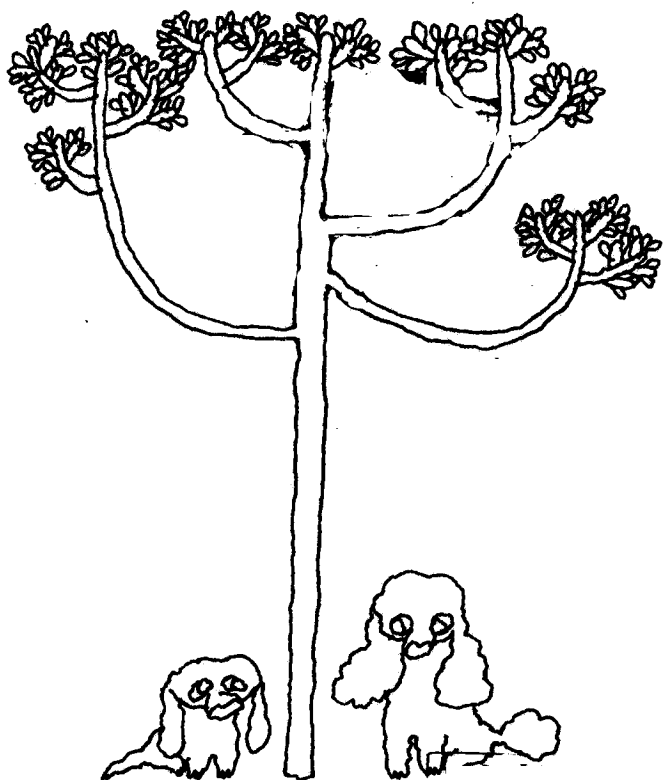
いたずらスニップ いねむりダンカン

N. ベンチリー作 掛川恭子訳 渡辺三郎画



ツプ いねむりダンカン

N. ベンチリー作 掛川恭子訳 渡辺三郎画



訳者紹介 **掛川恭子** (かけがわ やすこ)

東京生まれ。津田塾大学英文科卒業。
英米児童文学の翻訳に従事。主な訳書
に「フランバーズ屋敷の人びと」三部
作、「バラの構図」「小さな魔法のほっ
き」「ふたりのひみつ」「小さな魔女ド
リー」シリーズ、「さよなら、金色のラ
イオン」など多数がある。

画家紹介 **渡辺三郎** (わたなへさぶろう)

1913年、福島県生まれ。ユニークな色
彩とあたたかみあふれる絵で、絵本や
挿画の世界で活躍中。「ねこのおしご
と」「おつかいたっちゃん」など、作品
は数多い。小学館絵画賞、毎日出版文
化賞を受賞。



いたずらスニップ いねむりダンカン

1984年5月5日初版発行

訳者 掛川恭子

発行者 岡本陸人

発行所 株式会社あかね書房

東京都千代田区西神田3-2-1 ㊤101

電話 03(263)0641<代>

振替 東京3-64150

印刷所 新興印刷製本株式会社(本文)

錦明印刷株式会社(表紙)

製本所 株式会社難波製本

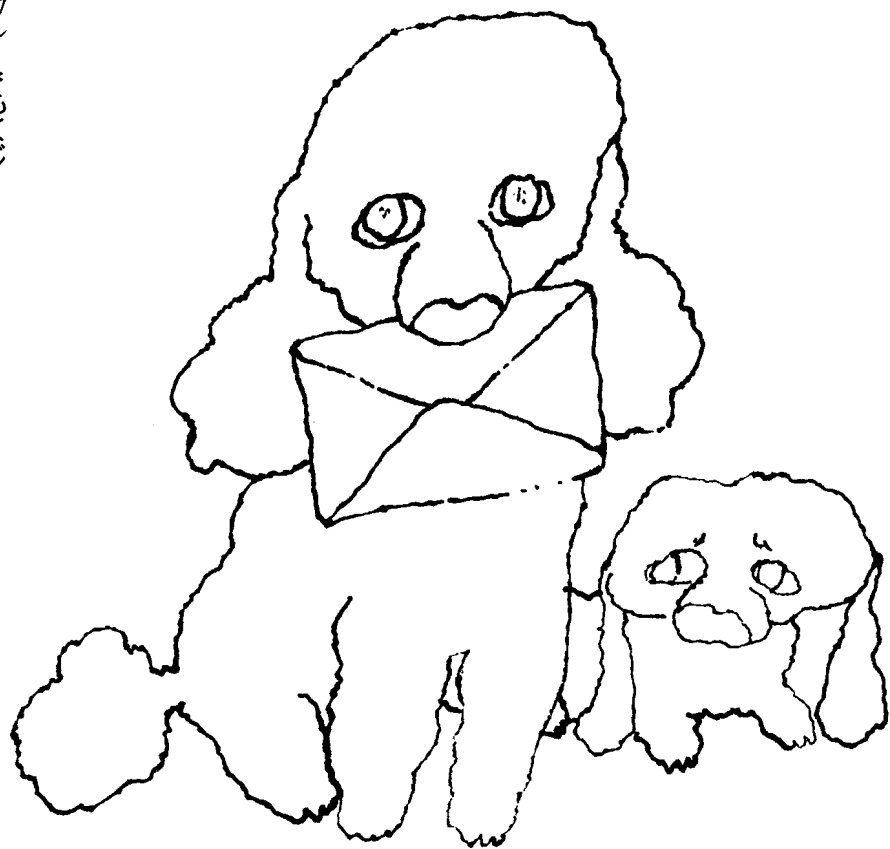
NDC933 101P 21cm あかね世界の文学シリーズ

©1984 Y Kakegawa

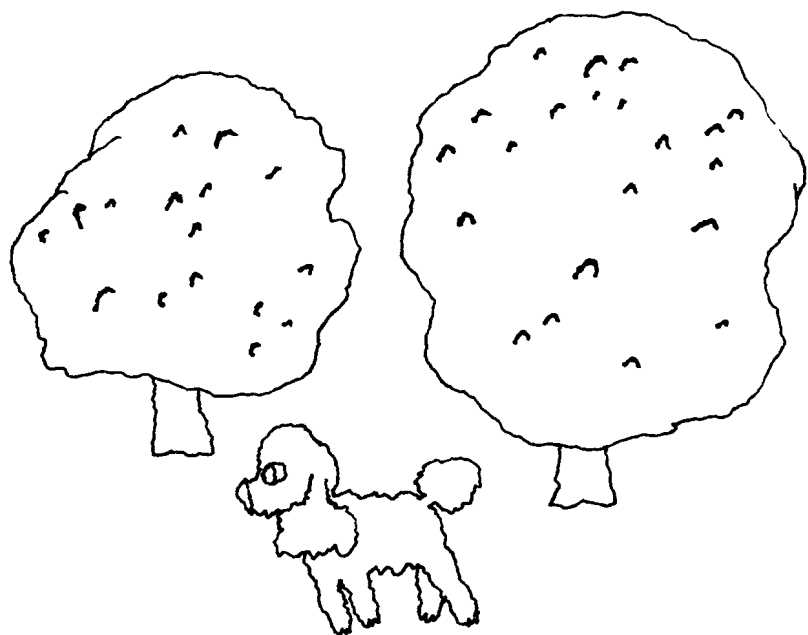
Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取りかえします
定価はカバーに表示しております
ISBN4 251 06242 6

いたずらスニップ いねむりダンカン *もくじ



- 4 サーカス 51
- 3 ぼっけん 38
- 2 いたずら 17
- 1 あたらしい家族^{かぞく} 6

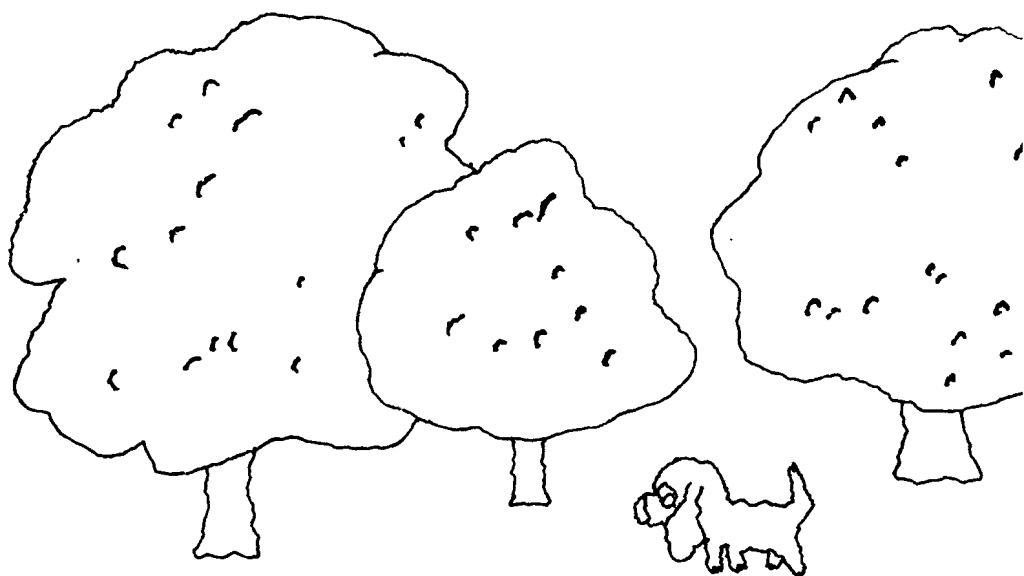


5 綿尾ウサギ^{わたお} 63

6 さよなら、ダンカン 95

* 作者と作品について 100

そうてい・さしえ * 渡辺三郎



SNIP

Copyright © 1981 by Nathaniel Benchley

Japanese translation rights arranged with

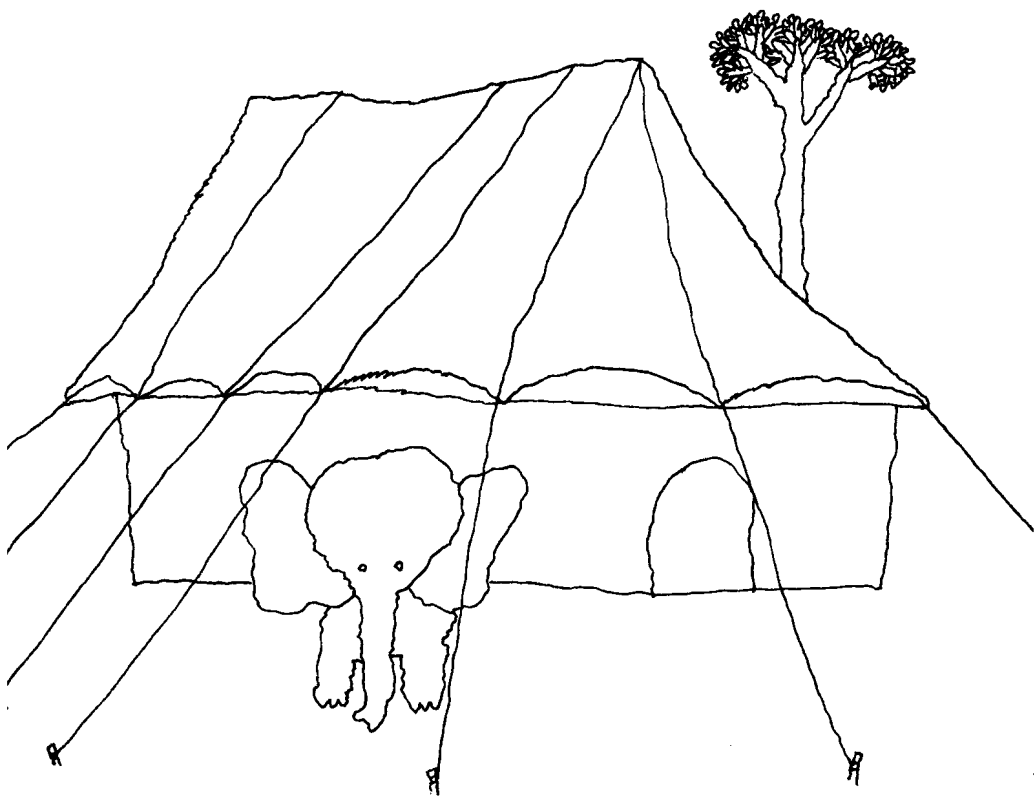
The Estate of Nathaniel Benchley %

International Creative Management, Inc., New York

through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo

いたずらスニップ

いねむりダンカン



1 あたらしい家族^{かぞく}

ダンカンとは、とても年をとったビーグル犬です。

ダンカンだって、むかしは原っぱをかけまわって、ウサギをおいかけたり、すがたをみせない、ビーバーやカワウソのような動物^{どうぶつ}がのこしていったにおいを、かぎまわったりしたものでした。

けれど、だんだん年をとってくると、からだのふしぶしと思うようにうごかなくなり、むかしのように走りまわりたいという気もなくなってきました。

そのかわりダンカンは、しょっちゅうねむっていました。夏は、



お日さまの下で、冬は、家のなかのだんろの前で。そして、ゆめのなかで、いつまで走ってもちつともつかれなかった、わかかったところにもどっていくのでした。

からだがよくうごかないことのほかにも、いろいろこまることはありますが、それでもダンカンは、毎日けっこうたのしくやっています。

飼^かい主^{ぬし}のおばさんは、毎日きまった時間に、ちゃんとごはんをくれます。ときどきはうつかりして、台^{だい}所^{どころ}や食^{しょく}堂^{どう}のテ-ブルの上に、食べものをならべっぱなしにしておくことだってあります。ダンカンはいすの上にとびのると、そこからテ-ブルにのりうつり、目の前にならんでいるものをたいらげてしまいます。むかしのように、あつというまに、ということとはなくなりましたが、食べることだけは、ちゃんと食べます。それに、一度^{ひと}に食べきれな



いほどあるときには、地下室や階段かいだんの下に、すこしずつ分けてかくしておき、あとでほしくなったときに、出して食べることにしていました。

家にイヌがいると、人間のくらしは、飼かっているイヌにふりまわされるものです。ダンカンの家でも、主人はダンカンで、家じゅうが、ダンカンを中心にうごいていました。つまり、ダンカンは、ぬくぬくやさしい世界せかいに、どっぷりつかっていたのです。ほかのビーグルたちがどんなくらしをしているのか、ダンカンは知りませんでした。だれかとかわりたいなんて、考えたこともありませんでした。

ある日、ダンカンが、だんろのそばでうとうとしていると、玄関げんのドアのあく音がして、飼かい主ぬしのおばさんが入ってきました。

おばさんはいつも子どもたちにはなしかけるときにつかう声



で、なにかいっています。かた目をあけてみると、おばさんが、なんだか黒い毛の玉みたいなのを、ちようどゆかにおろしたところでした。四本の足らしいものが、ちよっぱりのぞいています。「ダンカン、これ、スニップよ。プードル犬なの。まだとても小さいから、やさしくしてやってね。」

おばさんがいました。

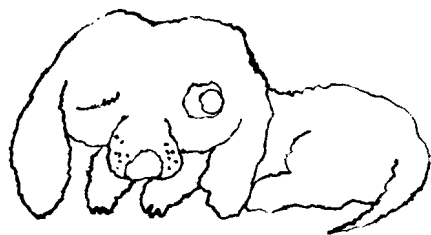
ダンカンは、玉がよたよた近づてくるのを、ながめていました。もつと近くになると、青い目がふたつ、もしやもしやの毛のなかからのぞいているのが見えました。

「おまえ、どこから来たんだね？」

ダンカンがきました。

「わかんない。つれてこられたから、ここにいるの。」

スニップはそういうと、こんなことできるんだから、とじまん



するように、ポン！ とひとつ、とびあがりました。

「おいおい、気をつけてくれよ。四六時しろうじちゅう、せいしゅくしゅくにすべし、というのが、この家やのきまりなんだから。」

ダンカンがいました。

「おじちゃん、なにいつてるんだか、ぜんぜんわかんない。」

スニップがいました。

「そのうちわかるだろうよ。」

ダンカンはどういうと、また目をとじて、ねむってしまいました。これが大きなイヌだったら、ダンカンもはらをたてたでしょうが、スニップがあんまり小さいので、これじゃ、あいてにもならないと思ったのです。

ダンカンはずめのなかで、クローバーとタンポポのさきみだれにいる広い原っぱを、ウサギをおいかけて、走りまわっていました。

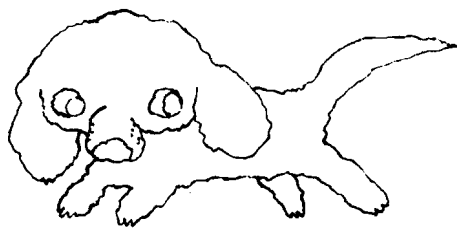
た。そして、そら、つかまえた！　と思ったときです。チクン！
針でさされたようないたみを、しつぽの先にかんじました。ダン
カン、さいしょ、クローバーのなかにかくれていたハチにささ
れたのかと思いました。でも、いたみはどんどんひどくなってい
きます。

とうとう目がさめてしまいました。目をあけてみると、スニッ
プが、針のようにとがった小さな歯に、ダンカンのしつぽをくわ
えて、ふりまわしているじゃありませんか。ダンカンがかみつこ
うとすると、スニップはびっくりしてとびのきました。

「気をつけるように、いっといただろ！　いわれたことが、わか
らないのかね？」

ダンカンがどなりつけました。

「気をつけたよ。だから、きつくかまなかったもん。もちあげて、



ふっただけじゃない。」

スニップは、小さな声でこたえました。

「ふるんなら、なにかほかのものにしてもらいたいね。ウサギをおいまして、よし、つかまえた！　　と思ったところだったのに、おまえのおかげで、せっかくのゆめがだいなしだ。」

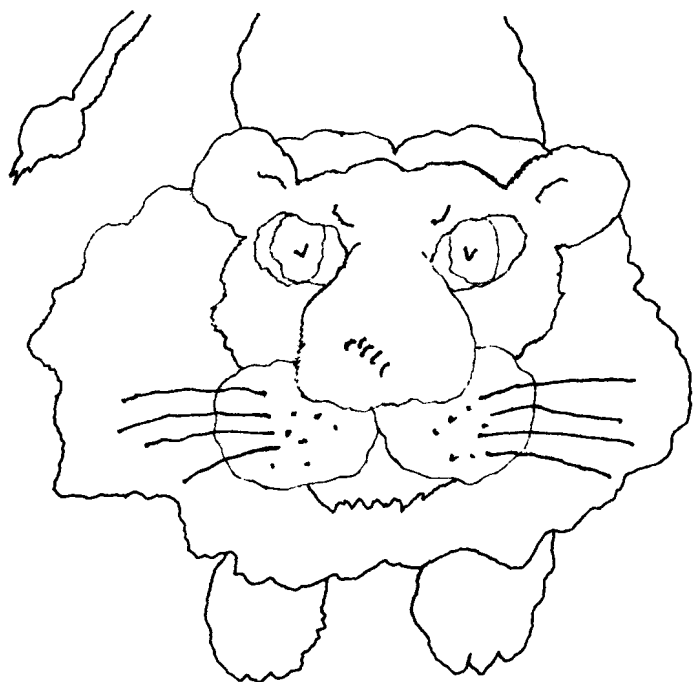
「ウサギって、なあに？」

スニップがきました。

ダンカンは、あなのあくほど、スニップをみつめました。

「おまえには、せつめいしたってむだだ。」

ダンカンはそういうと、また目をとじました。でも、もう一度ゆめの世界せかいにもどっていきながら、ふと、スニップだって、いつまでも小さいわけじゃない、大きくなったらやっかいだぞ、と思いました。そうはいつでも、大きくなるのは、まだまだあとのこ



とだ、心配しんぱいするのは、そのときにしよう、そう思ったとたんに、またねむってしまいました。

ダンカン、こんどもまたゆめのなかで、ウサギをおいかけました。ところが、そのウサギが、スニップにかわったと思ったら、こんどはたちまち、ライオンにかわりました。ライオンは、するどいきばをむいて、目をギラギラさせながら、はんたいにダンカンをおいかけます。びっくりして、目がさめました。

となりの部屋へやから、なんだか大きな音がきこえてきます。ダンカンが、おもいこしをあげてしらべにいつてみると、またスニップです。ダンカンの水のみ皿ざらを立てて、台所だいどころじゅうころがしてまわりながら、むちゆうになって、キャンキャンないているのです。「あそびのじゃまをしたくはないんだが、おまえにとつちや、それがせいいいゆくってわけかね？」